

初級日本語教科書における授受補助動詞「てあげる」の扱い

—「恩着せがましさ」への配慮に着目して—

小口 悠紀子 (広島大学) ・ 帖佐 幸樹 (福山大学非常勤講師)

1. はじめに

日本語の授受表現は「あげる」「くれる」「もらう」という三項対立を持つが、これは世界の言語の中で最も複雑な体系だとされる(山田 2011)。一般に日本語の教科書では、これら授受表現の三項対立が導入された後、授受補助動詞「てくれる」「てもらう」「てあげる」が導入される。しかし、授受補助動詞「てあげる」に関しては、下記のように聞き手に不快感を与える使用が産出される可能性があることから、初級教科書では扱う必要がないとする主張がある(田中 2005)。

- (1) 台湾, 各国からのお客さんの苦情の, あの, データを翻訳したり解決してあげたり, そういう仕事をやっております。(KY コーパス中国語話者, 超級, CS03, 田中 2005:71-72)

庵(2019)は、現在の学習者層の変化に対して、現行の初級シラバスには不必要な項目が多すぎると問題提起している。白川(2005)でも、学習者の視点に立った日本語教育文法の必要性を唱えた上で、授受表現の三項対立全てを初級レベルの指導項目として一度に扱うことは「体系主義の悪影響(野田 2005)」だと指摘している。上記のような流れを合わせて考えると、初級における授受補助動詞の「てあげる」の扱いについては、田中(2005)が言うように、再考の余地がある。

しかし、実際には現在も「てあげる」は多くの教科書の導入項目として残っている。中には、説明のみに留めたり、練習文を減らしたりしているものもあるものの、完全になくなってはいない。その理由として、「てあげる」を初級教科書で扱わない場合、代わりにいつどのように扱うべきかについての議論が進んでいないということがある。今後、こうした議論を進めるにあたっては、実際の言語使用をもとに提案を行うことも重要であるが、その前に現行の初級日本語教科書において「てあげる」がどのように扱われているか実態を整理し、把握する必要がある。

そこで本研究では、初級日本語教科書における「てあげる」を対象に、導入・練習でどのように扱われているのかを整理し、「てあげる」が持ち得る恩着せがましさに対してどのような配慮がなされているかという観点から考察を行う。

2. 先行研究と本研究の立場

「てあげる」は、恩恵を表す授受補助動詞の一つとされ、日本語教科書や日本語教育の研究においては、「てくれる」「てもらう」と合わせて提示されることが多い。

庵他(2001)では、「てやる・てあげる」及び「てさしあげる」は話し手側の人の意志的行為によって第三者または聞き手が恩恵を受けることを表すとされる。そのため、話し手側の人の意志によって恩恵的状况が作り出されているという解釈がされ、恩着せがまし

い印象を与えることが指摘されている。また、守屋（2002）では、話し手が上位者の聞き手に対して、聞き手の利益になる行為を行うことを申し出る場合に「てあげる」を用いると不適切であると指摘している（例2）。それに加えて、庵（2011）では、受益者が聞き手の場合だけでなく、第三者の場合であっても、目上の場合には不適格になると記述している。このように「てあげる」は、相手に不快感を与える使用につながる可能性を持つため、学習者への指導の際には注意が必要であると考えられる。

(2) (忙しい先生に) 忙しいですね。お手伝いしてあげましょうか。

(守屋 2002:9 一部改)

田中（2005）は語用論的に聞き手に良い印象を与えない可能性のある「てあげる」を、必ずしも「てくれる」「てもらう」と一緒に教える必要はないとし、初級の指導項目から外すべきだと主張している。この背景には、日本語学習者の多様化が進む中、指導項目を「コミュニケーションにほんとうに必要な文法（野田 2005:5）」に絞っていくべきだという指摘、現行の初級シラバスには不必要な項目が多すぎる（庵 2019）という考え方が存在する。本稿の立場も、基本的には上記の田中（2005）、野田（2005）、庵（2019）に賛同する。しかし、この点において、教科書の記述を変えていくには、以下2つの課題が残されている。

(3) 「てあげる」を初級教科書で扱わないことを提案する代わりに、いつどのように扱うべきなのかについては十分議論が進んでいない。

(4) 学習者が「てあげる」を適切に運用できるように、どのような指導や文法記述が求められるのかについて検討の余地がある。

これらを解決するためには、まず日本語指導の現状を把握し、実際の運用を踏まえながら議論を重ねる必要がある。本稿では、その第一段階として、日本語教科書や教師用指導書を分析し、「てあげる」が導入・練習でどのように扱われているのかを整理し、「恩着せがましさ」に対してどのような配慮がなされているかという観点から、日本語教科書における「てあげる」の扱いについて考察を行う。具体的な分析の観点は下記2点である。

(5) 導入・練習で扱われている例文に特定の傾向が見られるか。具体的には、与益者が話し手か否か。また、受益者への直接使用か否か。

(6) 指導書などにおいて、恩着せがましさへの説明がどのようになされているか。具体的には、受益者の性質（目上、非親密性など）にどう言及されているか。

3. 分析

本稿で分析対象とする教科書を表1にまとめ、以降、本文中では略称を用いる。本稿では初級レベルの日本語学習者を対象とするもののうち、内容を4技能の一部などに特化していない総合的な教科書11冊と教師用指導書を対象とした。これらの教科書を対象とした理由は、岩田（2011）、中俣（2014）の教材分析において取り上げられている教科書で

あり、日本語教育現場で広く使用されていると考えられるからである。教師用指導書については、当該項目に関する説明を、教科書執筆者の立場や考えを知る手がかりとして考察の対象とした。分析対象とした教科書を表1にまとめる（丸番号は、本文中表に対応）。

表 1 分析対象とした初級総合日本語教科書

初級総合日本語教科書												
	①	②		③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
教科書名	日本語 初歩	Situational Functional Japanese Vol.2: NOTES 第二版	Situational Functional Japanese Vol.2: DRILLS 第二版	日本語 初級1 大地 メイン テキスト	初級 日本語 下	初級 日本語 げんきII 第2版	いっぽ にほんご さんぽ 暮らしの にほんご 教室 初級2	できる 日本語 初中級 本冊	みんなの 日本語 初級I 第二版	新文化初 級日本語 II	まるごと 日本のこ とばと文 化 初中級 A2/B1	なかま2 THIRD EDITION
発行年	1981	1994	1994	2008	2010	2011	2012	2012	2012	2013	2015	2018
略称	初歩	SFJ		大地	初級	げんき	いっぽ	できる	みんな	新文化	まるごと	なかま
課	29	14		22	22	16	38	8	24	28	6	9
編集者 編著者 出版社	国際交流 基金	筑波ランゲージグループ		スリー イーネッ トワーク	東京外国 語大学留 学生日本 語教育セ ンター	The Japan Times 出版	スリー イーネッ トワーク	できる日 本語教材 開発プロ ジェクト	スリー イーネッ トワーク	文化外国 語専門学 校	国際交流 基金(ジャ パンファ ウンデー ション)	CENGAGE Learning

分析は「てあげる（てやる）」が用いられている導入・練習の全135例を抽出し、筆者2名で分類作業を行った。各教科書における授受表現の本動詞と補助動詞の導入順序を表2に示す。

表 2 初級日本語教科書における授受表現の導入順序（数字は導入課）

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
あげる	29	13	10	8	14	19	初8	7	22	初2A2 17	6
もらう	29	13	10	8	14	19	初8	7	22	初2A2 17	6
くれる	29	13	22	8	14	38	初8	24	24	—	6
てあげる	29	14	22	22	16	—	初中8	24	28	初中 A2B1 6	9
てもらう	29	14	22	22	16	38	初中8	24	28	初中 A2B1 4	9
てくれる	29	14	22	22	16	38	初中8	24	28	初中 A2B1 4	9

授受表現を導入するタイミングは教科書によって異なるが、『初歩』『SFJ』を除いて、授受補助動詞は授受動詞と少し期間を空けてから導入されていることが分かる。

4. 結果と考察

4-1. 導入・練習で扱われている例文に特定の傾向が見られるか

教科書の導入・練習で扱われている例文が、与益者が話者か否か、および、受益者への直接使用か否かについては、以下の結果が得られた（表3）。

なお、『SFJ』において、「てあげる」は文法知識として紹介されるものの、学習者に練習させる項目には含まれておらず、教師用指導書でも扱っていない。また、地域日本語教室向けに作成された『いっぽ』においては、「てあげる」はコラムでの紹介に留められ、導入や練習項目としては扱われていない。これら2冊は「てあげる」を紹介する傍ら、この表現が恩着せがましきのニュアンスを含み得ることに配慮し、「ましょうか」を使用することを学習者に推奨している点で他と異なっている。

表 3 教科書に出現する「てあげる」文における与益者・受益者の関係性

	与益者	受益者	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	計
A	話し手	聞き手	1	0	0	0	10	-	9	0	0	0	4	24
B	話し手	第三者	18	3	9	4	16	-	0	15	6	6	9	86
C	第三者	第三者	1	1	3	1	1	-	0	1	0	0	6	11
D	聞き手	第三者	4	0	3	0	2	-	0	1	2	2	0	14

ここからは、教科書に出現する例文のタイプ4種について整理する。

(A) 与益者が話し手、受益者が聞き手とは下記のような例のことを指す（以下、明示されている場合には与益者を二重下線、受益者を波線で表す）。

- (7) A: へえ、私も作ってみたい。
B: じゃ、今後作り方(を)教えてあげる。(できる いってみよう)
- (8) A: 友達がなくてさびしいんです。
B: そうですか。私の友だちを紹介してあげましょうか。(げんき 練習)

『できる』では、話者の過去の経験に聞き手が興味を持っているという文脈、『げんき』では、聞き手が風邪をひいていたり、困っているという文脈において、聞き手が喜ぶであろうことを話者が申し出たりする場面での使用である。

(B) 与益者が話し手、受益者が第三者とは下記のような例のことを指す。

- (9) 私は妹にお金を貸してあげました。(げんき 文法)
- (10) 友だちみんなでパーティーをして、ふたりの結婚を祝ってあげます。
(まるごと よんでわかる)

主に、自分が過去にしたことを報告として述べる場面における使用である。例文や練習文としての出現が最も多いが、文脈を伴わない機械的な練習で使われることが多かった。

(C) 与益者が第三者、受益者が第三者とは下記のような例のことを指す。

- (11) きょうこさんはトムさんを駅に連れて行ってあげました。(げんき 文法)

教科書では、第三者が話し手側の立場から表現される場合もあることを示す例として用いられており、1例のみの出現が多い。なお、『なかま』での出現数が6例と多いのは、図解や使役表現と複合的に解説されているページを含んでいることによる。

(D) 与益者が聞き手、受益者が第三者とは下記のような例のことを指す。

- (12) 太郎くんは母の日に何をしてあげますか。
…ピアノを弾いてあげます。(みんな 例文)

これは、会話練習などで「てあげる」での回答を引き出す質問文として出現していた。

全体の傾向を見ると、(B)受益者が第三者である例文が86例と最も多かった。これは、与益者が話し手、受益者が聞き手の場合、恩着せがましく聞こえる可能性があることに配慮していると考えられる。

だが、コミュニケーションの目的を考えると、「てあげる」を用いる必然性が低い練習も見られる。具体的には、(A)与益者が話し手、受益者が聞き手である例について、『げんき』では8例、『できる』では5例を練習問題として提示していた。『げんき』は困っている友人に対して、『できる』は話し手の経験や所有物に興味を示す友人に対して、話し手が、友人が喜ぶであろうと予想する行為を申し出る場面での練習であった。

- (13) A: 友達がいなくてさびしいんです。
B: そうですか。私の友だちを紹介してあげましょうか。(げんき 練習 再掲)
- (14) A: へえ、写真(を)見たい。
B: じゃ、今度見せてあげる。(できる 言ってみよう)

いずれも聞き手が助けを求めている文脈を提供することで、「てあげる」を用いた申し出表現が使いやすい状況を提示している。しかし、これらは「ましようか」での言い換えも可能な状況であり、人間関係や状況を正確に読み取ることが難しい状況での会話であれば、むしろ「てあげる」を回避することが無難ではないか。

一方で、(A)与益者が話し手、受益者が聞き手の例文が4例出現していた『なかま』では、4例中3例において上記2冊とは異なる特徴が見られた。具体的には、文脈の設定のみならず、「たい」という文末表現を伴う使用であること、「けど」という接続助詞を伴う使用であることで、「てあげる」単独の使用と比較して、恩着せがましが軽減されているように感じられる。

- (15) A: あのう、10ドルかしてくれない？
B: ごめん。かし {てあげたい/?たい} けど、持ってないんだ。
(なかま Activity5 一部改)

中俣(2014)では、書き言葉(BCCWJ)に現れる「てあげる」を調査した結果、言い切りの形は多くなく、接続助詞が続く使用、「～てあげよう」「～てあげましよう」「～て

あげたい」など、意志や勧誘の形で多く使用されていることを明らかにしている。¹例 17、18 のように話し言葉コーパスでも同様の使用が見られることから、例 16 のような使用は、実際のコミュニケーションを踏まえると、(初級以降の)教科書において積極的に扱うべき使用である可能性がある。この点については、今後、コーパス調査などをもとに議論を進めたい。

(16) A: 食べれるかなー。今日作るやつが結構大量だったら食べきれないかも。

B: いいわよ。私が食べてあげるから。(名大会話コーパス data080)

(17) そのためにも早く(子供を)産んであげたいけど。

(J-TOCC 日本の未来東日本女女)

4-2. 恩着せがましさへの説明がどのようになされているか

まず、教科書や教科書に付随する教師用指導書における恩着せがましさへの説明文は、「誰に対して使用すると恩着せがましくなるのか」という観点から分類すると、以下の(A-1)~(A-3)の3つのタイプに分けられることが分かった(表4)。表中の記号は記述があることを示す。

表4 日本語教科書における「てあげる」が持つ恩着せがましさへの説明

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
A-1	目上・聞き手			○	△		○		○			
A-2	非親密・聞き手				△				○		○	
A-3	一般・聞き手		○		△					○		

(A-1)「目上・直接」とは、(24)のような記述である。(A-2)「非親密・直接」とは、(25)のような記述である。なお、この記述には、目上・直接の記述も含まれている。(A-3)「一般・直接」とは、(26)のような記述である。

(18) この表現は押しつけがましい印象を与える場合があるので、話し手が目上の人のために何かをする／したことを、その人に向かって直接話すときには使わないほうがいいでしょう。(大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」 p.183)

(19) 「～てあげます」はあまり親しくない人や目上の人に対して用いると押しつけがましく聞こえ、失礼になるので、相手に対して直接使うことは避けるよう指導する。(みんな 教え方の手引 p.204)

(20) 目の前にいる相手に対して、「私は～てあげる」と言わないほうがいいことを説明する。(新文化 教師用ガイド p.63)

¹ 中俣(2014:96)では、「てあげる+接続助詞」の出現数が13.7%、「てあげたい」が7.6%、「てあげようか」が6.7%であり、他の形式と比較して後続に表現が続く確率がかなり高いと判断されている。

このうち、(19)にある親しくない人への使用や(20)にある関係性にかかわらない使用について、恩着せがましく聞こえる可能性があるかについては、過去に言及している論文が見当たらなかった。

次に、恩着せがましきに対する記述が見られる教科書には、受益者が聞き手である例文、すなわち、(A)タイプの例文が出現していないことが分かった。先の分析結果と合わせると、初級日本語教科書には主に次の4つのタイプが存在していることが分かった。

- (21) 「てあげる」を言語項目として紹介するのみに留め、練習の対象とはせず、申し出の場面では「ましょうか」を用いること推奨しているもの (SFJ, いっぽ)
- (22) 「てあげる」は導入、練習の対象となるが、受益者が第三者の場合のみ例文を提示するもの (初級)。さらに、受益者が聞き手の場合には恩着せがましく聞こえるという解説を示すもの (大地, みんな, 新文化, まるごと)。
- (23) 「てあげる」は導入、練習の対象となるが、受益者が聞き手の場合には例文を示すのみに留め、産出練習には含めないもの (初歩)
- (24) 「てあげる」を導入・練習の対象とし、受益者が聞き手である場合でも、申し出の場面で積極的に扱うもの (げんき, できる, なかま)

このうち、(24)に出現する例文23例中19例は、申し出を行うというコミュニケーション上の目的を達成するためには、「ましょうか」「ようか」に言い換えて申し出ることが可能であった。

5. おわりに

本稿では日本語教科書における「てあげる」の「恩着せがましき」に対してどのような配慮がなされているのかという観点から、日本語教科書の用例を分析し、以下の点を明らかにした。

- (25) 全体の傾向として「てあげる」文は、受益者を聞き手とせず、第三者とする例文が最も多い。これは、与益者が話し手、受益者が聞き手の場合、恩着せがましく聞こえる可能性があることに配慮していると考えられる。
- (26) 与益者が話し手、受益者が聞き手の「てあげる」の使用例の多くは、「ましょうか」「ようか」に言い換えて申し出というコミュニケーション上の目的を達成することが可能な場面であった。

本稿では初級日本語教科書における「てあげる」の扱いを明らかにし、教科書によって扱いが異なっていることを明らかにした。コミュニケーション上の目的を考えると必須ではない「てあげる」については、初級教科書で扱う必要がないと考える。今後はコーパスデータを分析することにより、議論を精緻化していきたい。

参考文献

庵功雄 (2011) 「日本語教育から見たやりもらい表現」『日本語学』30(11), 50-58.

- 庵功雄 (2019) 「学習者の変化に対応しポストを守るための留学生日本語教育とくやさしい日本語」 『日本語教育はどこへ向かうのか』 57-78, くろしお出版
- 岩田一成 (2011) 「数量表現における初級教材の「傾き」と使用実態」 101-122 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』, ひつじ書房
- 白川博之 (監修) (2001) 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田信弘 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』, スリーエーネットワーク
- 白川博之 (2005) 「日本語学的文法から独立した日本語教育文法」 『コミュニケーションのための日本語教育文法』 43-63, くろしお出版
- 田中真里 (2005) 「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」 『コミュニケーションのための日本語教育文法』 63-82, くろしお出版
- 中俣尚己 (2014) 『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』 くろしお出版
- 中俣尚己・太田陽子・加藤恵梨・澤田浩子・清水由貴子・森篤嗣 (2021) 「『日本語話題別会話コーパス: J-TOCC』」 『計量国語学』 33(1), 11-21, 計量国語学会
- 野田尚史 (2005) 「コミュニケーションのための日本語教育文法的设计図」 『コミュニケーションのための日本語教育文法』 1-20, くろしお出版
- 藤村逸子・滝沢直宏 (編) (2011) 『言語研究の技法: データの収集と分析』 ひつじ書房
- 守屋三千代 (2002) 「日本語の授受動詞と受益性~対照的な観点から~」 『日本語日本文学』 12, 1-22, 創価大学日本語日本文学会
- 山田敏弘 (2011) 「類型論的に見た日本語の「やりもらい」表現」 『日本語学』 30(11), 4-14.

教科書情報

- ① 『日本語初歩』 (1981) 国際交流基金 (鈴木忍・川瀬生郎), 凡人社.
- ② 『Situational Functional Japanese Vol.2: NOTES 第二版』 (1994) / 『Situational Functional Japanese Vol.2: DRILLS 第二版』 (1994) 筑波ランゲージグループ, 凡人社.
- ③ 『日本語初級1 大地 メインテキスト』 (2008) 山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子, スリーエーネットワーク.
- ④ 『初級日本語 下』 (2010) 東京外国語大学留学生日本語教育センター, 凡人社.
- ⑤ 『初級日本語 げんきII 第2版』 (2011) 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子, The Japan Times 出版.
- ⑥ 『いっぽ にはんご さんぽ 暮らしのにはんご教室 初級2』 (2012) 宿谷和子・天坊千秋・森桂子, スリーエーネットワーク.
- ⑦ 『できる日本語 初中級 本冊』 (2012) できる日本語教材開発プロジェクト, アルク.
- ⑧ 『みんなの日本語 初級I 第二版』 (2012) 田中よね・澤田幸子・重川明美・牧野昭子・御子神慶子, スリーエーネットワーク.
- ⑨ 『文化初級日本語II テキスト 改訂版』 (2013) 文化外国語専門学校日本語科, 文化外国語専門学校.
- ⑩ 『まるごと 日本のことばと文化 初中級 A2/B1』 (2015) 独立行政法人国際交流基金 (来嶋洋美・柴原智代・八田直美), 三修社.
- ⑪ 『なかま2 THIRD EDITION』 (2018) 畑佐由紀子・畑佐一味・牧野成一, CENGAGE Learning.